

行くだけじゃ面白くない!

大人の 「ひねり旅」 指南



第3回

これぞ大人旅の醍醐味!
「移動式」豪快旅!!

DiThi (ディシイ) 代表
観光ホスピタリティコンサルタント

石田 宜久

URL <http://www.dithi.net>
E-mail info.contact@dithi.net

旅が特別なものと考えているのなら、今回、紹介する旅の方法は、最も特別な旅の候補に挙げる事ができるかもしれません。

前回、期間の長いロングステイでも様々な方法があり、やり方によっては案外簡単に計画が立てられることを述べましたが、それでも「予約を取るのが面倒」「結局プランを立てるのが煩わしい」と思われたかもしれません。確かに旅をする時間が長くなれば、予定を立てるのにも時間がかかってしまいます。

しかし今回は、予約という行為はたった1回で、場合によっては予約も必要ありません。さらに、「行き当たりバツ旅」の要素を含めた第3回目のテーマは、決める事柄がなく、詰め合わせ旅を楽しむ「移動式の旅」です。

移動式の旅とは

「移動式の旅」。聞いたことがありますか? おそらく日本では聞きなれない旅の方法だと思えます。英語では「migratory tourism」

移住旅とか、放浪旅という単語で表現されています。

大元はオーストラリアの砂漠地帯アウトバックをキャンピングカーで旅をする形から始まっています。キャンピングカーを生活の拠点に、宿泊施設ごと旅をしてしまおうという、まさに豪快な考えです。もちろん、今はその形を変え、「移動も宿泊も全部一緒の、詰め合わせ旅」のことを移動式旅と訳すことができます。

思い当たる節がありませんか。クルーズ船旅は、このカテゴリーに属するのです。また2013年10月に開業した、九州を巡るクルーズトレイン「ななつ星」もそうです。しかし、日本は国土が比較的狭い国でもありますし、民宿や旅館は各地に数多くあるので、そこまで普及していません。ななつ星も計画段階では相当な議論があったとか。

ではなぜ移動式の旅をオススメするのか。第一に挙げられるメリットは、「ホテルや宿の予約もいらない、アクティビティを考える

JR九州が運行する「ななつ星」



必要もない」ことです。クルーズに関しても、寝ている間に目的地に連れて行ってくれて、現地では朝から観光を楽しめるわけです。ななつ星のように、オプションとしてツアーが盛り込まれているタイプもあります。

世界ではスタンダードな クルーズトレイン

JR九州でデビューした日本のクルーズトレインななつ星。日本ではクルーズトレインという旅は新しいステージへの第一歩で、これまでにはできなかった旅が日本でも可能になりました。乗車料金

は高価ですが、その人気は予約倍率18・2倍と、チケット入手は非常に狭き門です。それでも、次のチケットの売り始めを待つ人達は多く、倍率が下がることはしばらくないそうです。

「ななつ星の車両は「大人の空間」と位置付けられており、参加者は中学生以上限定で、車内共用スペースでのドレスコードが設けられています。スマートカジュアルということで、ジーンズやサンダルは禁止。全面禁煙で、車窓から望める風景と触れ合いを大切にしたいとのコンセプトから、テレビの設置はありません。コースによっては、途中の霧島温泉郷での宿泊が含まれており、名湯でくつろぐこともできます。

しかしながら、この倍率18・2倍の壁を越えてチケットを入手するのは困難です。日本にはまだクルーズトレインはここにしかありません。

では、海外の状況を紹介してみよう。欧州の「ロイヤルスコッツマン」や「トランススカンタプ

世界有数のクルーズトレイン「ロイヤルスコッツマン」



海の女王と称される「クイーンエリザベス号」現在就航している船は3代目となる



リコ」はまさしく世界有数のクルーズトレインです。特にロイヤルスコッツマンは、スコットランドに広がる野生の美を見ることができると、世界でも有数の絶景で知られるエリアをいくつも駆け抜けていきます。値段もそれなりにしますが、運営会社は「オリエント・エクスプレス」で、サービスの質は間違いありません。

また、クルーズではありませんが、豪華特急というのには世界中にあり、国土の広い豪州を走る「インディアン・パシフィック」や「ザ・ガーン」、ヨーロッパの国々をつなぐ「オリエント急行」など

は世界的に有名です。これらは、現地に行く必要がありますが、乗車賃そのものは驚くほど高価ではなく、チケットも時期によっては比較的取りやすい鉄道です。

船旅で多くの国々を
ゆつくりと巡りたい

日本にも豪華客船が寄港します。コミの話題になります。2014年3月にも「クイーン・エリザベス号」が、横浜ベイブリッジの下を夜中の干潮時にギリギリ通過したことが報道されました。

干潮時以外では、クイーン・エ

リザベス号の高さ(56・6m)の方が、横浜ベイブリッジの高さ(55m)を上回ってしまうので、入港できないほど。それだけ巨大な豪華船に乗船しての旅は、一生に一度は体験してみたいと誰もが思うのではないのでしょうか。

しかし、クルーズは日本では通常の海外旅行のように、すぐに予約に至らない傾向が多く、なかなか敷居が高いと考えられています。これは日本人のクルーズの三大誤解、すなわち「高価」「退屈」「窮屈」の勘違いがもたらした結果だといえるでしょう。

ご存知ですか？ 最大規模のクルーズ市場である北米では、年間1千200万人以上の人がクルーズを利用してきます。しかも、家族連れや夫婦、友人同士で、日本でいう温泉旅行のような感覚で気楽に楽しまれているのです。

実は、クルーズというと日本人には高額なイメージしかないのですが、世界のクルーズ客船の8割は、ファミリーや若い方向けの客船で、客室のランクにもよります

「英語が苦手」という方も安心！ 日本国籍の豪華客船！

●にっぽん丸（商船三井客船）

「食のにっぽん丸」「美味なる船」という愛称のとおり、とにかく食事に定評あるのが「にっぽん丸」です。そのためか、リピーターが多くはじめての方が遠慮がちになってしまう傾向が欠点とも言えます。

●飛鳥II（郵船クルーズ）

日本国籍船の中では圧倒的な大きさを誇るのがこの「飛鳥II」です。他の2船と比べると倍近くのサイズで、窮屈感がなく、欧米のクルーズライフを感じさせてくれる船です。認知度も拔群なのでチケット入手はお早めに。

●ばしふいっくびいなす（日本クルーズ客船）

3船の中では一番気さくな船と言えるのが特徴です。船員さんともフレンドリーに接してくれて、はじめての方でも乗りやすいです。しかしそれは短所でもあり、クルーズ旅の「豪華さ」には少し欠ける部分があります。

が、平均して1泊が5千円〜7千円。一週間のツアーでも5万円〜8万円が主流となっています。

数百万円もするクルーズはほんの僅かで、ごく限られた一部分の話で、全てが、映画『タイタニック』のような華やかな世界の話ではありません（映画の中では、船底にある庶民的な客室も描かれていました）。

さて、外国籍船の話ばかりをしましたが、日本国籍船も負けてはいません。「にっぽん丸」「飛鳥II」「ばしふいっくびいなす」などのクルーズ船が運航されています。日本にはまだクルーズ文化が根付いていないこともあり、外国船に

慣れ親しんだ人からの辛口コメントもあるのが現実ですが、それでも世界に負けないくらいの特徴を持ち、大海原の世界を楽しませてくれます。

いずれにしても、日本にクルーズ文化が根付かない理由として挙げられるのは時間です。一度、乗船してしまつたら寄港地に着くまで、下船は非常に困難になります。長期休暇を取つても、急な仕事が入つてしまつたので先に帰るなどという日本特有の忙しさがある限り、普及はなかなか難しいかもしれません。

そして、クルーズ船旅の特徴でもあるのですが、そのほとんどが

出発の2〜3ヶ月前からでもキャンセル料金が発生します。国内の飛行機や新幹線では、旅行業法により旅行者が守られる立場にあるのですが、外国籍船が行き来するクルーズ船では適応されていません。最も、欧米諸国では2ヶ月程度の休暇は当たり前です。まさに余暇に対する認識の違いです。

また、日本は地理的にもクルーズに不向きだと指摘されており、外国籍船がなかなか寄港しない背景もあります。前述しましたが、船が橋の下をくぐれない、整備された港の深さが足りないなどの問題が日本にはあります。したがって、船に乗るための移動が必要になり、旅行プランによっては海外の港まで出向くことになり、大きなデメリットを感じさせてしまうのです。

いつでもどこでも思うがまま キャンピングカーライフ

最後に紹介するのは、移動式旅の真骨頂であり原点でもある「キ

ャンピングカーライフ」です。

日本でも高機能のキャンピングカーを目にする機会が増えてきています。近年、大型のキャンピングカーは豪華なつくりになっており、住宅と遜色ない車もあります。それこそ、家ごと旅に出る感覚を味あわせてくれるキャンピングカーも存在します。

ここで問題となるのが、キャンピングカーの値段です。「そんな高額だから無理だ」とあきらめていませんか？ご安心ください。楽しむことができれば、そこまでの車は必要ありません。キャンピングカーでも大型のものが高価なのであって、その中でも比較的手に届きやすい車種はあるもので、世界ではそちらの方が主流になっています。それが「キャンパーバン」とも呼ばれるタイプです。

キャンパーバンは、ワンボックス車やRV車がベースになっており、大型車との違いは単にサイズだけで、ほとんどのタイプが、台所とソファベットの完備されていて、大人が横になれるだけのス

豪華なキャンピングカー。車内は広く家に居るようにくつろげる



ベースが確保できます。また、キャンピングカーの大きさによっては免許の問題が発生しますが、ベースがワンボックス車なら普通免許で運転ができますし、メンテナンスにもほとんど専門的な知識は必要ありません。さらに、このタイプの車種であれば数に限りはありますがレンタカーも可能です。大手のレンタカー会社は必ず用意していますので、「購入まではちよつと…」という方もトライできます。オートキャンプ場に行ってみると、同じ趣味の方が揃っているのです、話が盛り上がり交流にも華が咲きます。ただし、どこでも泊まれるメリ



トレーラータイプでも小型のものならば、けん引免許は不要

ワンボックスタイプは比較的安価で購入できる

ットがある反面、注意したい点もあるのです、併せて紹介しておきます。基本的にはどこでも車が駐車できれば、そこで宿泊が可能なのですが、道路交通法や土地（キャンピング地）の主権者が設定したルールなども存在しています。当たり前のことなのですが、実際に、この当たり前ができない利用者も多くいます。デビューされる際には、必ず設定されたルールを厳守してください。ルールさえ守れば、キャンプ用品の知識も必要なく、何よりも道具をそろえる手間やテントを張る時間の節約にもつながります。設営時間が短縮できれば、その時間

これだけは守りたい！ キャンピングカーの心得！

- ・駐車場の独占やスペースを広げるのはマナー違反、禁止です！
- ・入場制限されている駐車場もあるので、必ず確認してください。
- ・台所やトイレが設備されると汚水が出ます。決められた処理をする様にしてください。
- ・キャンプの基本は自然です。必要ない時はエンジンを止め、植物にも配慮してください。

移動式の旅は節約の旅

をアクティビティの時間に回すこともできます。車種にもよりますが、高価なキャンピング用品を一式そろえる値段と変わらない車輛価格で、中古車が買えてしまうケースもあります。「これからはアウトドア・ライフに力を入れてやってみるか」と考えている方には、趣味の広がりにもつながります。

今回の「移動式の旅」はいかがでしたか。なかなか聞きなれない言葉だと思えますが、本稿を一読され「なるほど！」と感じていた

だけたら幸いです。既にお気付きかもしれませんが移動式の旅に共通していることは「節約」です。また、冒頭にも挙げたように「予約」という行為自体は1回のみ、あるいは必要がありません。寝ている間に移動できる「列車」による旅

- ・豪華ホテル体験を長期間満喫しながら観光もできる「船旅」
- ・必要な要素がギュッと詰まっているので自由時間が取れやすくなる「キャンピングカー」

どれも最初は慣れない旅で戸惑うこともあるかもしれませんが、必ず人生の思い出リストに刻まれること間違いなしです。ぜひトライしてみてください。

次回は、「仕事や修学旅行などで訪れた場所に、もう一度改めて行ってみよう」と考えたことにお応えする企画です。経験豊かな読者諸氏だからこそ、違う一面が見つかるかもしれない旅の味わい方を紹介します。